

事務事業名		介護予防普及啓発事業		所属部	健康福祉部	所属課	地域包括支援センター
総合計画体系	政策名	(Ⅲ) 支えあい健やかに暮らせるまち《保健・医療・福祉》		所属G	包括支援G	課長名	小砂 祐子
	施策名	(22) 高齢者福祉の充実		担当者名	和泉 ちひろ	電話番号	0854-40-1043 (内線) 2161
	目的: 対象	65歳以上の市民	意図	生きがいを持って、いきいきと暮らす。			
	基本事業名	(066) 介護サービスの充実と介護予防の推進		予算科目	会計 款 大事業 大事業名 0 1 1 5 0 2 項 目 中事業 中事業名 0 5 6 7 0 2	一般介護予防事業 介護予防普及啓発事業	
目的: 対象	65歳以上の市民	意図	介護予防をする。介護サービスを受ける。				

1 現状把握 [DO]

(1) 事業概要

① 事業期間
<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (21 年度～)
<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 ( 年度～ 年度 )
② 事業内容 (期間限定複数年度事業は全体像を記述)
対象者) 65歳以上の高齢者 ・運動教室: 水中運動や室内運動を行う。自己負担400円/回 ・健口教室: 歯科衛生士による健口体操や口腔内の手入れ方法など行う。 ・認知症予防教室: 体操、脳トレーニング、レクリエーションを行う。自己負担200円/回 ・介護予防に関する健康教育の実施

(2) 事務事業の手段・指標

手段	① 主な活動	29年度実績(29年度に行った主な活動) 実利用者数: 運動20人、口腔12人、栄養0人、認知症74人、介護予防出前講座131人 開催回数: 運動60回、口腔15回、認知36回 介護予防出前講座開催数7回 ※認知症予防教室は前年度よりも増回。介護予防出前講座は29年度から新規メニューとして実施。	30年度計画(30年度に計画する主な活動) 各種教室の開催と事業評価 ※健口教室は、30年度から会場、定員数等を見直す予定。			
	② 活動指標	単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)
ア	実利用者数	人	30	29	236	165
イ	開催回数	回	77	74	118	113
ウ						
エ						

(3) 事務事業の目的・指標

目的	① 対象(誰、何を対象にしているのか)	65歳以上の高齢者(要介護、要支援となるおそれが高い介護予防が必要な高齢者)	③ 対象指標	単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)
	ア	65歳以上高齢者数	人	14,572	14,710	14,714	14,759	
	イ							
	ウ							
② 意図(対象がどのような状態になるのか)	・心身機能の維持回復 ・閉じこもりを防止 ・自立生活の助長及び要介護状態になることの予防	④ 成果指標	単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)	
ア	介護認定を受けていない高齢者の割合	%	80.8	80.8	81.2	81.2		
イ								
ウ								

(4) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (29年度決算)	② コストの推移	単位	27年度(決算)	28年度(決算)	29年度(決算)	30年度(計画)
報償費265千円、需用費13千円、役務費50千円、委託料5,738千円	財源内訳	千円				
	国庫支出金	千円				
	県支出金	千円				
	地方債	千円				
	その他	千円	3,971	4,083	6,066	7,304
	一般財源	千円				
	事業費計(A)	千円	3,971	4,083	6,066	7,304
	人件費	人	4	5	6	
	正規職員従事人数	時間	347	348	828	
	延べ業務時間	千円	1,358	1,381	3,376	
	人件費計(B)	千円	5,329	5,464	9,442	
	トータルコスト(A)+(B)	千円				

(5) 事務事業の環境変化、住民意見等

① 環境変化 (この事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?)	② 改革改善の経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)	③ 関係者からの意見・要望 (この事務事業に対して市民、議会、事業対象者、利害関係者等からどんな意見や要望が寄せられているか?)
高齢化に伴い、介護予防がますます重要となっている。 介護保険制度の改正に伴い、平成29年度からは総合事業の中の一般介護予防事業として実施している。	運動教室、健口教室は基本チェックリスト該当者を対象に2次予防事業として実施してきたが、平成29年度からは総合事業開始に伴い一般介護予防事業として実施し、対象者の幅を広げた。	利用者)健康に関心を持ち、いきいきとした生活が送れるようになった。送迎があると良い。にこにこ健口は、もっと早く元気なうちから参加するとよい。参加者が増えると良い。認知症予防教室は継続的に参加したい。

事務事業名	介護予防普及啓発事業	所属部	健康福祉部	所属課	地域包括支援センター
-------	------------	-----	-------	-----	------------

## 2 事後評価【SEE】

A 目的 妥当性	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？ 意図することが結びついているか？		見直し余地があるとする理由	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている * 余地がある場合⇒		
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して達成する目的か？			
B 有効性	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加する必要はないか？意図を限定・拡充する必要はないか？			
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である * 余地がある場合⇒		
	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？ 成果を向上させるため現在より良いやり方はないか？ 何が原因で成果向上が期待できないのか？			
C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある	理由	スタッフの研修等を実施し介護予防サービスの質の向上を図る。 住民に身近な地域運動指導員の活用により、より効果的な事業展開が期待できるとともに、指導員自身の生きがいにもつながることが期待される。	
	<input type="checkbox"/> 向上余地がない			
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 この事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？		理由	介護予防の必要性を理解し積極的に予防活動に取り組む高齢者が減り、虚弱な高齢者や介護を必要とする高齢者の増加が予想される。
<input type="checkbox"/> 影響無	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有			
D 公平性	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的達成には、この事務事業以外の手段(類似事業)はないか？ ある場合、その類似事業との統廃合・連携ができるか？		理由	
	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がある * ある場合⇒	(具体的な手段や類似事業名)		健康づくり部門や市内運動施設等が実施する運動教室
	<input type="checkbox"/> 他に手段がない	要介護状態となる原因の1つである脳血管疾患、筋骨格系疾患、フレイルを予防し健康寿命を延伸するため、今後は更に官民が連携し、壮年期からの一貫した健康づくり・介護予防の取り組みを進めることが必要である。		
A 目的 妥当性	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)		理由	
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない		健康づくり部門や市内運動施設等が実施する運動教室との連携・調整を図り、効果的で一貫した健康づくり・介護予防の取り組みとする必要がある。
B 有効性	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 成果を下げずにやり方の工夫で延べ業務時間を削減できないか？ 正職員以外や外部委託ができないか？		理由	
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある	<input type="checkbox"/> 削減余地がない		健康づくり部門や市内運動施設等が実施する運動教室との連携・調整を図り、事業の統廃合や委託が可能となれば削減可能と思われる。
C 効率性	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？ 受益者負担が公平・公正か？		理由	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である		雲南市全域で、介護予防が必要な高齢者を対象としており、公平・公正におこなっている。
D 公平性	① 1次評価者としての評価結果		② 1次評価結果の総括(根拠と理由)	
	A 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり		健康づくり・介護予防の必要性を理解し、積極的に予防活動に取り組む高齢者を増やす必要がある。また、介護予防事業の実施に際しては健康づくり部門や民間との連携・調整が必要である。
評価 の 総 括	B 有効性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり		
	C 効率性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり		
	D 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり		

## 3 今後の方向性【PLAN】

① 1次評価者としての事務事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可	② 改革・改善による期待成果																		
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input checked="" type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	<table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>		コスト				削減	維持	増加	成果	向上	●		維持		×	低下	×	×
		コスト																	
	削減	維持	増加																
成果	向上	●																	
	維持		×																
	低下	×	×																
健康づくり・介護予防の必要性を理解し、積極的に予防活動に取り組む高齢者を増やす必要がある。また、介護予防事業の実施に際しては健康づくり部門や民間との連携・調整が必要である。	<p>廃止・休止の場合は記入不要。 コストが増加(新たに費やし)で成果が向上しない、もしくはコスト維持で成果低下では改革・改善とはならない。</p>																		